



2016年5月11日

報道関係各位

株式会社ヴィッツ

Safety&Security 両規格に準拠した 統合開発支援サービスを開始

株式会社 ヴィッツ（本社：愛知県名古屋市、代表取締役社長：服部 博行）は、機能安全と組込みセキュリティ開発の実務経験・知見を活かして、Safety&Security 両規格に準拠した統合開発支援サービスを2016年5月より開始しました。

1. 背景

近年、自動車、鉄道、航空機、医療機器、工作機械、建設機械、農業機械、産業ロボット、サービスロボット、燃焼機器、電動自転車、電動工具などのさまざまな製品において、システムの複雑化・誤動作による事故が大きな問題となり、製品の輸出の国際法規として「安全(Safety)規格への準拠」が必要になりました。

また、2015年7月の米国でのJEEPのリコール140万台の事例が発生するなど、セキュリティの脅威も現実になってきました。現在、IEC 62443などSecurityの国際規格が整備されてきており、「Security規格への準拠」が必須の方向で進んでおります。

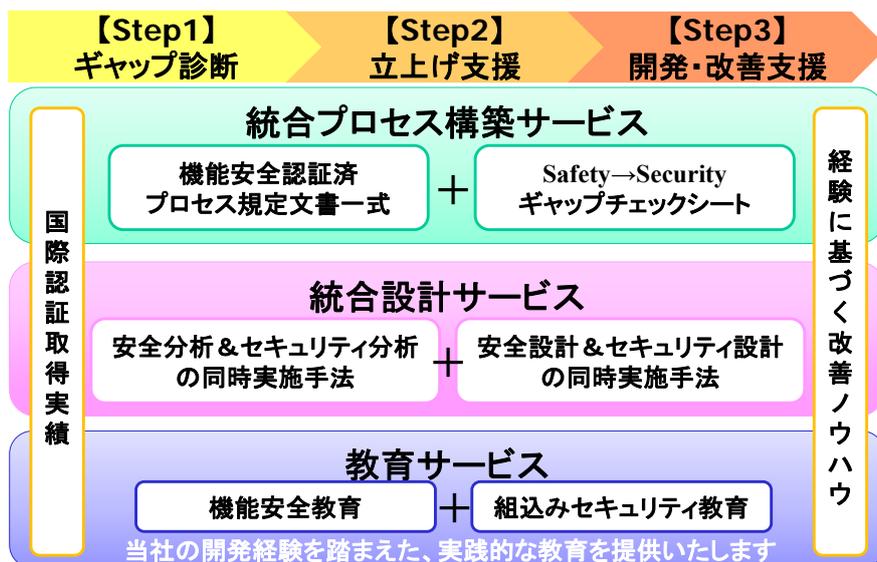
2. 課題に対する当社の取り組み

機能安全(Safety)規格に準拠しているにも関わらず、Securityの国際規格に準拠するには、以下の大きな課題があります。これに対し、当社ではさまざまな取り組みを行って参りました。特に、機能安全(Safety)の認証取得経験を踏まえたにもかかわらず、Securityの対応には5年も要しましたが、その違いを習得できたことが大きな成果です。

Security対応の課題	当社の取り組み
SafetyとSecurityの要求は大きく異なるため、統合開発は容易ではない(167要求中3~4割程度合致)	SafetyとSecurityの“共通項”・“差異”・“対策”の整理
開発準備(立上げ)に膨大な作業と時間が必要(準備期間:当社実績5年程度)	立上げ時のノウハウ蓄積とマテリアル構築(準備期間:1年程度をめざす)
膨大な追加活動による開発コスト増大(当社研究事業の実績では、従来開発コストの5倍以上)	豊富な開発経験を踏まえたコスト削減ノウハウの蓄積(マテリアル提供、プロセス改善)

3. サービスの内容

当社は、機能安全(Safety)とSecurity規格準拠に関する豊富な経験を活かし、お客様のコスト削減に貢献いたします。準備段階から開発・改善まで、実践的な支援を提供いたします。



4. 今後のサービス拡張について

上記のサービスによって、お客様の課題に対して“改善”できますが、完全に解決することはできません。それだけ Safety や Security への対応は容易ではなく、暫くは多くの課題を抱え続けることでしょう。

当社は、今後も世の中の新しい技術をいち早く習得し、少しでもお客様の更なるコスト削減、品質・安全性向上に貢献できるよう努めて参ります。

お問い合わせ先

本発表に関するお問い合わせは、以下にお願いします。

株式会社ヴィッツ

総務部：脇田、佐藤（技術的内容；機能安全開発部：森川）

TEL: (052) 220-1218